

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見		
						評価すべき点	検討を要する点	その他
3-9 (実用化一般)	渡辺哲	東海大学医学部	教授	職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査とそれに基づく望ましい配慮の在り方に関する研究	2013/11/11	・今年度より開始された「肝炎患者の就労に関する総合支援モデル事業」の実施団体との連絡会を開催し、これまでの研究成果や、知っておくべき法令・現在の問題点を共有できたこと。	・研究結果をどのような形で発出していか、行政との連携が必要。また、モデル事業参加団体と協力し、データベースが構築された後も事例を収集できる体制が望ましいのではないか。	
3-10 (実用化一般)	相崎英樹	国立感染症研究所ウイルス第二部	室長	慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集のあり方等に関する研究	2013/12/21 (2班合同)	・フォローアップの難しさ(同意や個人情報など)が明らかになる一方で、少なからずフォローアップシステムの構築により受診に結びついた症例が確認されており、有用性は示されている。モデル的に行われている相談体制なども効果をあげていることが示されている。加藤班との合同班会議が行われ、非常に有用であったと思われる。	・本研究課題におけるウイルス学的・組織学的検討と、行政的・疫学的検討との関連性をより明確にする必要がある。感染研や肝炎情報センターなど本邦の肝炎対策に重要な班構成を持っているが、現行のフォローアップシステムの将来的展望(このまま研究費として行うのか、いずれは感染研での事業化を目指すのかなど)を示すこと、行政とのより強い連携が望まれる。	
3-11 (実用化一般)	田中英夫	愛知県がんセンター研究所疫学・予防部	部長	肝炎対策の状況を踏まえたウイルス性肝疾患患者数の動向予測に関する研究	2013/7/30	・いくつかの異なった手法による推計でも、結果が類似しているということから、推計値の信頼性がある程度裏付けられている。肝がん患者数の将来予測も行っており、そのインパクトは大きい。本研究班で得られるデータ、数字は直接行政施策やその評価に反映されるため、意義は大きい。	・変数、係数などの統計学的な数字における科学的根拠がやや曖昧ではないか。医療費助成受給者の割合が施設・地域によって異なる可能性があり、疫学データとしての普遍性を示すためには、なるべく多施設で広い範囲での情報収集が求められる。行政施策へ繋げるにあたっては、数字のみならず、変動しているものに対する科学的な解釈を添えられたい。	
3-12 (実用化一般)	平尾智広	香川大学医学部公衆衛生学	教授	ウイルス性肝疾患に係る各種対策の医療経済評価に関する研究	2013/6/25	・モデルの作成が緻密に行われている(それ故検討課題もある)。また、本邦の医療の現状(再活性化の経済モデルも、de novo肝炎ありきではなく、予防のモニタリングのcostを検討する等)を踏まえた実臨床的なデータが出てきそうである。	・無症候キャリアにも関わらず入院実績があったり、実医療費と矛盾しているように見えたり、緻密なモデルを作成する故の障害がある。これについては多施設のデータを踏まえて妥当なモデルを作って欲しい。今後の本邦の肝炎対策を推進し、また国民の理解を得るあたり重要な課題の一つと考えており、今後も確固たるモデルで検証をお願いしたい。新たな課題を提案させて頂き、最終年の内容はかなり多大なものになると思われるが、是非とも行政施策に反映できるよう公表をお願いしたい。	
3-12 (実用化一般)	平尾智広	香川大学医学部公衆衛生学	教授	ウイルス性肝疾患に係る各種対策の医療経済評価に関する研究	2013/12/5	現在、報告書作成中		
3-13 (実用化一般)	田尻仁	大阪府立急性期・総合医療センター小児科	主任部長	小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	2013/6/27	・これまでの調査結果を基に、小児のウイルス性肝炎治療の標準化をおこなっており、成人の肝炎治療との整合性又小児の特異性について、班会議において議論をまとめていく。秋頃までにはまとまる予定であり、期待できる。 ・データとしては非常に精緻であり、小児期のウイルス肝炎の病態を把握する上で有用な報告が行われている。治療法の標準化においても、これらの情報をもとに十分な検討を行い提言がまとめられつつある。保険適応の面からも実用的な内容になるよう考慮して標準治療法が検討されている。	・治療の標準化を行っていく際に、小児ではどうしても保険診療の適応等について検討が必要であり、本省の肝炎対策室と密な連携を進めて欲しい。 ・班会議でも意見が出ているが、小児期のウイルス性肝炎の治療適応について十分な検討と提言をお願いしたい。また、治療にあたっては専門医・経験豊富な医師との連携を前提とするよう注意喚起もされたい。	
3-13 (実用化一般)	田尻仁	大阪府立急性期・総合医療センター小児科	主任部長	小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	2013/11/28	・小児期のB型肝炎、C型肝炎の治療ガイドラインを作成しており、年度内には完成の見込みである。内科の医師の協力を得ながら、小児の状況を踏まえて作成を行っており、適切に進行している。	・ガイドライン作成は、現時点での知見を集めてものであり、今後の新薬開発状況等により逐次見直す必要がある。また、実際にガイドラインに従ってどうであったのかを追いかけることが必要である。	・ガイドラインの周知方法については、厚生労働省担当課と十分に協議する必要がある。

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見		
						評価すべき点	検討を要する点	その他
3-14 (実用化一般)	工藤正俊	近畿大学医学部	教授	慢性ウイルス性肝疾患の非侵襲的線維化評価法の開発と臨床的有用性の確立	2013/9/7	・症例登録に若干の遅れがあるようだが、研究計画の最終年度(3年度)として、おおむね妥当な進捗状況にあると考える。Real-time tissue elastographyを用いた基礎的工学的研究(椎名班員)を興味深く聞いた。多数症例による評価を通じて、新技術として実用化・洗練化されることを期待したい。最終年度として、成果の取りまとめの加速、論文を望む。	1) いうまでもなく、症例数は解析・評価の統計的有意性を担保する上でcriticalであり、各機関におけるEthics clearance、外科・病理部門との連携・協力関係の確立を含め、継続して、症例エントリー増やす一層の努力を要望したい。 2) 本研究の推進には、肝臓消化器(関連)内科、外科・病理部門との緊密な連携・協力関係が不可欠であるが、Ethics clearanceや病理標本の共有等に関して、部門間の壁が障害となっている場合があるとの声を少なからず聞いた。全くの私見であるが、このような点こそ、厚労省がpositiveな意味での勧告・指導を行える余地があるのではないかと感じた。 3) 本研究が検査装置の開発企業等との潜在的な利害関係を予測させることから、関連研究者の利害相反事項に関して厳密な申告、ルール遵守を要望したい。	
3-15 (実用化一般)	成松久	独立行政法人産業技術総合研究所糖鎖工学研究センター	研究センター長	肝疾患病態指標血清マーカーの開発と迅速、簡便かつ安価な測定法の実用化	2013/8/30	・臨床検体を用いて、将来的な実用化を見据えて研究が行われている。	・これまでのデータからは、既存の検査系を凌駕する感度・特異度、あるいは異なった意義を持つマーカーとしての力はまだ十分でない感じがある。この検出系をどのように患者の予後改善に生かすことが出来るか。予後予測だけでなく、治療適応や検査間隔の判断への反映など。	
3-15 (実用化一般)	成松久	独立行政法人産業技術総合研究所糖鎖工学研究センター	研究センター長	肝疾患病態指標血清マーカーの開発と迅速、簡便かつ安価な測定法の実用化	2013/12/13	・多施設で様々な検討がなされており、一部結果の解釈が難しいところがあるが、着実にデータの集積が行われている。本研究で検討中のマーカー単独ではまだ確実性に難がありそうだが、いくつか他のパラメータと組み合わせることで、総合的な肝硬変・肝がんの診断をより確実にする一助となる可能性がある。	・肝線維化のマーカーになり得るものとして検討が進められているが、このような検査系の開発においては、その結果をどのように臨床に反映させるか、治療効果の向上への寄与などの見直し・有用性も今後検討されるべきではないかと考える。	
3-15 (実用化一般)	成松久	独立行政法人産業技術総合研究所糖鎖工学研究センター	研究センター長	肝疾患病態指標血清マーカーの開発と迅速、簡便かつ安価な測定法の実用化	2014/3/26	出席予定		
3-16 (実用化指定)	四柳宏	東京大学医学部付属病院感染症内科	准教授	集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究				
3-17 (実用化指定)	八橋弘	国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター	臨床研究センター長	病態別の患者の実態把握のための調査及び肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究	2013/7/5			
3-17 (実用化指定)	八橋弘	国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター	臨床研究センター長	病態別の患者の実態把握のための調査及び肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究	2014/2/7			

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見		
						評価すべき点	検討を要する点	その他
3-18 (実用化指 定)	泉並木	武蔵野赤十字病院 消化器内科	副院長	慢性肝炎・肝硬変・肝癌の病態解明と 各病態および都市形態別で求められる 医療を考慮したクリティカルパスモデル の開発のための研究	2013/4/16			
3-18 (実用化指 定)	泉並木	武蔵野赤十字病院 消化器内科	副院長	慢性肝炎・肝硬変・肝癌の病態解明と 各病態および都市形態別で求められる 医療を考慮したクリティカルパスモデル の開発のための研究	2013/6/28	・専門医とかかりつけ医とで重視している項目の相 違や、フォローがされにくいところなどが明らかとな り、今後のパス作製や診療連携で注意すべき点が 分かりやすかった。	・パスを導入している症例がまだまだ少ないので、 パス導入による変化を検証するのが難しいのでは ないか。特に、肝心の郡部での症例が少ない。 分担研究で行われている疫学的、病態学的研究 の結果をいかに本題の行政課題に反映させるか、 うまくまとめて欲しい。	
3-18 (実用化指 定)	泉並木	武蔵野赤十字病院 消化器内科	副院長	慢性肝炎・肝硬変・肝癌の病態解明と 各病態および都市形態別で求められる 医療を考慮したクリティカルパスモデル の開発のための研究	2014/1/10	・研究調査により自治体における現状を把握する ことに加えて、先進事例の情報提供など副次的な 産物が得られる可能性がある。	・課題名前半の病態解明が、後半のクリティカルパ スモデルの開発にいかにか寄与しているかの検討・ 説明が不透明である。アンケート結果を踏まえて 研究班として次にどのような戦略を考えるのか。ク リティカルパスモデルの開発のための研究として いることから、その提供・普及のありかたを検討さ れたい。また、病態解明における症例集積の体 制、検討課題についてもその効率性を検討する必 要がないか。特に症例が少ない事項においては解 明およびパスモデルの開発につながりにくいので はないか。	
3-19 (実用化指 定)	龍岡資晃	学習院大学大学院 法務研究科	客員研究員	肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差 別の実態を把握し、その被害の防止の ためのガイドラインを作成するための研 究	2013/12/2	現在 報告書作成中		
3-19 (実用化指 定)	龍岡資晃	学習院大学大学院 法務研究科	客員研究員	肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差 別の実態を把握し、その被害の防止の ためのガイドラインを作成するための研 究	2013/12/11	・龍岡班長より、日本の肝炎患者をとりまく差別偏 見の状況についてウォード氏に説明があり、 ウォード氏よりアメリカの肝炎患者の状況について 説明を受けた。アメリカのオバマケアにより、肝炎 患者が医療にアクセスしやすくなり、飛躍的に患者 の状態が改善される見込みがあることが分かっ た。また、差別・偏見についてアメリカ特有の事情 もあるが、正しい知識の普及にCDCが努力してい る点を理解した。研究班として、このような情報収 集をすすめ日本における患者の状況の改善に役 立てて欲しい。		
3-19 (実用化指 定)	龍岡資晃	学習院大学大学院 法務研究科	客員研究員	肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差 別の実態を把握し、その被害の防止の ためのガイドラインを作成するための研 究	2014/1/21	現在 報告書作成中		
3-19 (実用化指 定)	龍岡資晃	学習院大学大学院 法務研究科	客員研究員	肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差 別の実態を把握し、その被害の防止の ためのガイドラインを作成するための研 究	2014/2/27			

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見		
						評価すべき点	検討を要する点	その他
3-20 (実用化指 定)	加藤真吾	慶応義塾大学医学 部	専任講師	肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓 発に関する研究	2013/6/8	・当研究班により、最新の知見に基づく保健所にお ける検査・相談マニュアルが作成されることが期待 される。肝炎ウイルス検査マップなど、普及啓発も 行われており、その効果も興味深い。学校教育に おけるプログラム作成についても、慎重かつ有意 義な検討を進めている。	・検査関連の研究は他の研究班でも行われている 分野があるため、当研究班において検査体制や 検査手法をご提言頂く際は、それらとの整合性確 認をお願いしたい。研究期間は2年と短いため、本 研究の成果を次のステップへ繋げられる形でまと めてほしい。	
3-20 (実用化指 定)	加藤真吾	慶応義塾大学医学 部	専任講師	肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓 発に関する研究	2013/12/21 (2班合同)	・保健所における検査状況がよく検討されており、 問題点も見えている。今後も行政と連携し、対応方 針の提示とその検証を行い、引き続いた研究を行 うことが重要と思われる。特に、インターネットサイ トのデータとして普及啓発が広がっていることは注 目される。また、今回行われた相崎班の合同班会 議は、問題認識と対応方針の検討において非常 に有益であったと思われる。	・若年者の感染に対する対策が急がれる。検査の 勧奨や情報伝達手段を今後も検討していく必要が ある。都市形態によって検査の実情は異なるかも 知れないが、広く検査相談の促進ができるように マニュアルが作成され、普及されることが望まれ る。行政、他の公益団体、肝炎情報センターなどを 活用するのはいかがか。	
3-21 (指定)	森光敬子 (H25.4宮川昭二よ り代変)	国立感染症研究所	企画調整主幹	肝炎等克服緊急対策研究事業の企画 及び評価に関する研究	2013/9/27	・研究班への助言は、研究班を支援する視点から 行ってきた。 ・活動報告については、評価委員会での評価に十 分に活用してもらいたい。・それぞれの研究班にお いて、プログラムオフィサーの活動に対する認識度 が上がって来ている様子であり、更に活動を充実 したい。	・他のプログラムオフィサーの助言内容等について 情報があつた方がより質の高い助言・支援が行え るので、情報共有について仕組みを検討したい。 今後、試行的に、研究班の状況について数値化し た評価を検討してはどうだろうか。	

(注1) PO意見欄空欄の研究班については、POが欠席したものである。
(注2) 関係者のみ閲覧 各自責任を持って破棄願います。

平成25年度 肝炎等克服緊急対策研究事業

1年目	採択課題数	班会議の案内が来た課題数	対応した課題数
一般	14	11	11
若手	4	0	0
指定	0	0	0
	18	11	11
		採択課題のうち班会議の案内が来た課題の割合	班会議の案内が来た課題のうちPOが出席した割合
		62%	100%

2年目	採択課題数	班会議の案内が来た課題数	対応した課題数
一般	8	8	8
若手	4	0	0
指定	0	0	0
	12	8	8
		採択課題のうち班会議の案内が来た課題の割合	班会議の案内が来た課題のうちPOが出席した割合
		67%	100%

終了	採択課題数	班会議の案内が来た課題数	対応した課題数
一般	12	11	11
若手	3	0	0
指定	6	5	4
	21	16	15
		採択課題のうち班会議の案内が来た課題の割合	班会議の案内が来た課題のうちPOが出席した割合
		76%	94%

＜図5＞ 再評価画面

The screenshot shows a web interface for re-evaluation. It features a header with navigation links like '再評価' and 'ログアウト'. Below the header is a table with multiple columns and rows, likely representing different evaluation items or criteria. The table is mostly empty, suggesting it's a form for inputting new data.

研究発表会・評価委員会で再評価された評価情報を更新

＜図6＞ 評価内容一覧画面

The screenshot displays a list of evaluation items. The table has columns for 'No.', '開始年月', '状態', '課題番号', '研究課題名', '研究代表者', '所属施設', '職名', '総点 (専門的・学術的観点)', and '総点 (行政的観点)'. The list includes items numbered 1-01 to 1-13, with titles like 'H24肝炎一般-001' and 'H24肝炎若手-011'. A status of '完' (Completed) is shown for all items.

各々の評価内容を一覧

<図7-1> 評価票

課題評価票 | 事業概要 中間 ログアウト | 肝炎等克服緊急対策研究事業

印刷 | 一覧画面へ戻る

肝炎等克服緊急対策研究中間評価票(個人)

評価委員名 _____

受付番号	研究代表者名	研究代表者の所属機関及び職名
1-01	正木 尚彦	
研究課題名		
応募研究分野		

(1)専門的・学術的観点からの評価に当たり考慮すべき事項

総計(点)			
30			
ア. 研究計画の成熟度 (成熟)	イ. 今後の研究計画の 妥当性・効果性	ウ. 研究員総能力	

(2)行政的観点から評価に当たり考慮すべき事項

ア. 評価時点での就業時 への活用等	

(3)効率的・効果的な運営の確保の観点からの評価に当たり考慮すべき事項

ア. 効果性の確保	評点者のコメント (効果性が確保されていない場合、研究計画で対応すべき内容及び理由に示す)
確保されている	検討または 中止を要する

<図7-2> コメント票

課題評価票 | ログアウト | 肝炎等克服緊急対策研究事業

印刷 | 一覧画面へ戻る

肝炎等克服緊急対策研究事前コメント票

受付番号	研究代表者名	研究代表者の所属機関	職名
0-08			
研究課題名			
応募研究分野			

◇効率的・効果的な運営の確保の観点からの評価に当たり考慮すべき事項

◇総合的に勘案すべき事項(研究内容の倫理性等)
採択後、実施化に向けた関係者が実施することになると思われる計画は、必ず示すこと。

◇評価者のコメント
採点理由が記載されています。

プログラムオフィサーの活動を支援するためのシステムの開発について

本研究班においては、肝炎等克服緊急対策研究事業等において研究を行う公募研究課題の研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究課題研究代表者(森光)及び4名のプログラムオフィサーが分担して出席可能な研究班会議に出席を行っている。

平成25年9月に今回、本研究班においてプログラムオフィサーとして活動を依頼している4名の研究者に集まって頂き、これまでのプログラムオフィサーとしての活動の概括及び活動の質を高めるための方策について検討を頂いた。

以下が検討のまとめである。

【プログラムオフィサーとしての活動の概括】

- ・これまで当該研究事業のそれぞれの研究班に対して、出来る限り適切な助言ができるよう活動をしてきた。
- ・また、評価委員会におけるコメント等を踏まえて助言も行ってきた。
- ・研究班への助言は、研究班を支援する視点から行ってきた。
- ・活動報告については、評価委員会での評価に十分に活用してもらいたい。
- ・それぞれの研究班において、プログラムオフィサーの活動に対する認識度が上がって来ている様子である。
- ・プログラムオフィサーとして班会議に出席した場合、研究の進捗状況と研究班内の連携については、必ず見る必要があるだろう。

【今後の活動の質を高める方策について】

- ・他のプログラムオフィサーの助言内容等について情報があつた方がより質の高い助言・支援が行える。
- ・研究班会議に出席する場合、評価委員会からのコメントの他、過去に班会議に出席したプログラムオフィサーがどのような報告をしているのかについて知っていれば、よりよい助言・支援ができると考える。
- ・今後、試行的に、研究班の状況について数値化した評価を検討してはどうだろうか。

このようなプログラムオフィサーの活動に関する意見を頂いて、班会議情報を共有し、プログラムオフィサー間では提出された報告書等の閲覧が可能となる Web システムの開発を行った。

【開発したシステムの特徴について】

＜班会議情報の迅速な共有について＞

班会議開催の連絡から開催までの短期間であったり、班会議開催時期が重なったりすることなどから、プログラムオフィサーの出席調整が難しいことが生じている。また、研究班の会議が複数回あるような場合には出来る限り同じプログラムオフィサーに出席を依頼しているが調整が出来ない場合もある。

このようなことから、班会議開催の連絡を Web を通じて行い、プログラムオフィサーの出席の調整が速やかに出来るようにした。また、研究班に関する基本的な情報や班会議資料も出来る限り掲載できるようにすることで、会議出席前に必要な情報を速やかに入手出来るよう工夫している。

＜プログラムオフィサー間での報告書情報の共有について＞

プログラムオフィサー間において、他のプログラムオフィサーの活動状況及び報告内容を共有することにより、研究班への助言・支援がより適切になると考えられる。

このことから、プログラムオフィサーが作成した報告書については、速やかに Web 上に掲載し、他のプログラムオフィサーが閲覧可能となるように工夫している。

＜今後のシステムの試用について＞

このシステムについては、平成26年早期より試用を開始する予定である。また、昨年度同時期にシステム等に関して、プログラムオフィサーから意見をもらって改良を加える予定である。

また、将来的には、評価委員やプログラムディレクターが班会議状況やプログラムオフィサーの活動状況をリアルタイムに確認できるようなシステムとすることを検討している。

参考：開発したシステムの詳細

今回開発したシステムについて、以下のとおりその詳細を記載する。

① ログイン画面

The screenshot shows a login page titled "班会議情報共有システム". It features a central form with the following elements:

- ID :** A text input field.
- パスワード :** A password input field.
- ログイン** button.
- A link: [→パスワードを忘れた方はこちら](#)

Below the form, contact information is provided:

<お問い合わせ先>
 国立感染症研究所企画調整主幹室
 TEL : 03-4582-2651 (内線2103)
 Email : kaigijyouhou@kansenken.net

プログラムオフィサーに対して、ID とパスワードを配布して、限定した者のみが入るシステムとしている。

<新規登録>

新規登録は、管理者である国立感染症研究所企画調整主幹が行う設定となっている。

The screenshot shows the "ユーザー新規登録" (New User Registration) page. It includes a navigation bar at the top with links: "班会議情報共有システム", "報告書一覧", "班会議管理", "アカウント管理", "ログアウト", and a user name "ようこそ! 登光敷子さん".

The registration form contains the following fields and controls:

- 研究事業 : 必須** (dropdown menu)
- 氏名 : 必須** (text input)
- ID : 必須** (text input)
- パスワード : 必須** (password input)
- E-mail 1 : 必須** (text input)
- E-mail 2 :** (text input)
- E-mail 3 :** (text input)
- ユーザー権限 :** (dropdown menu)
- 新規登録** button

② 班会議開催スケジュール

プログラムオフィサーはログイン画面からすぐに班会議開催スケジュールの画面をみることができるとができる。

班会議スケジュール一覧

スケジュール絞り込み

2014年02月

01月03日 金曜日	班会議名: 相田幸二班qqaaa 課題番号: --- 研究課題名: tekisu 開始年度 - 終了年度: H22年 - H28年	班会議主催者: 相田幸二 出席予定者: 田中宏太 dfyhj ああああ 山本覚 班会議開催日時: 2014年 01月03日 ~ 02月05日 開催場所:	<input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席 <input type="checkbox"/> 保留 <input type="button" value="詳細を見る"/> <input type="button" value="報告書を見る"/> <input type="button" value="報告書作成・修正"/>
02月01日 土曜日	班会議名: 佐藤一樹班 課題番号: --- 研究課題名: 21 開始年度 - 終了年度: H22年 - H28年	班会議主催者: 佐藤一樹 出席予定者: 田中宏太 班会議開催日時: 2014年 02月01日 ~ 02月01日 開催場所:	<input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席 <input type="checkbox"/> 保留 <input type="button" value="詳細を見る"/> <input type="button" value="報告書を見る"/> <input type="button" value="報告書作成・修正"/>

< 班会議開催の連絡 >

班会議開催の連絡が事務局に入ると Web 登録の作業を行う。登録により上記の班会議スケジュール一覧に掲載されると同時に、プログラムオフィサーに対して、メールで班会議が開催される旨自動的に連絡が入るシステムとなっている。

< 班会議出席の登録 >

班会議開催の連絡を受けて、上記の班会議スケジュール一覧を見たプログラムオフィサーの出席が可能という場合には、上記の画面上の“出席”ボックスをクリックすると出席登録される。

③ 報告書の作成

プログラムオフィサーは、班会議に出席後に下記の画面の“報告書作成・修正”ボックスをクリックして、報告書作成画面を出して記入をする。内容確認後に“送信”ボックスをクリックすると報告書が事務局に送付される。

班会議スケジュール一覧

スケジュール絞込

2014年02月

<p>01月03日 金曜日</p>	<p>班会議名: 相田幸二班qqaaa 課題番号: --- 研究課題名: tekisu 開始年度 - 終了年度: H22年 - H28年</p>	<p>班会議主催者: 相田幸二 出席予定者: 田中宏太 dfyhj あああお 山本寛 森光 班会議開催日時: 2014年 01月03日 ~ 02月05日 開催場所:</p>
-----------------------	---	---

※報告書の作成をお願いします。

班会議報告書作成 - 相田幸二班qqaaa H2014年01月03日

■ 総合点
 ※計画通りに進んでいるような状況は、基準点を6と考えてください。
 なし
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10

■ 研究課題が全体的にスケジュールとおりに進んでいるか？
 良い
 どちらかというが良い
 どちらかというが悪い
 悪い

■ 研究期内の連携が良好か？
 良い
 どちらかというが良い
 どちらかというが悪い
 悪い

■ 評価すべき点

■ 検討すべき事項

④ 報告書の閲覧

プログラムオフィサーは、以下の画面の“報告書をみる”のボックスをクリックすることにより、他のプログラムオフィサーが提出した報告書をみることができる。

<p>02月01日 土曜日</p>	<p>班会議名: 佐藤一樹班 課題番号: --- 研究課題名: 21 開始年度 - 終了年度: H22年 - H28年</p>	<p>班会議主催者: 佐藤一樹 出席予定者: 田中宏太 班会議開催日時: 2014年 02月01日 ~ 02月01日 開催場所:</p>
-----------------------	--	---

以上

平成26年度

Ⅲ 疾病・障害対策研究分野

5. 感染症対策総合研究事業

(3) 肝炎等克服政策研究事業

＜事業概要＞

B型・C型肝炎ウイルスに現在感染している者は、全国で合計約 300～370 万人と推定されており、国内最大級の感染症である。感染を放置すると肝硬変、肝がんといった重篤な病態に進行し、我が国の肝がんによる死亡者数の約9割がB型・C型肝炎ウイルス起因と報告されている。このようなことから平成 22 年1月に肝炎対策基本法(平成 21 年法律第 97 号)が施行され、同法において策定することとなっている肝炎対策の推進に関する基本的な指針が平成 23 年5月に告示された。同指針において国は、肝炎医療の水準の向上等に向けて、肝炎に関する基礎、臨床研究に加えて疫学・行政研究等を総合的に推進する必要があるとされている。

以上のような背景から、肝炎の予防及び肝炎検査・医療の推進に資する本研究事業は、国民の健康面での安心・安全の実現のために重要であり、今後も肝炎に関する疫学・行政研究等を進め、引き続き、肝炎対策を総合的に推進するための医療体制・社会基盤整備に必要な研究を行う。

この公募は、本来、平成 26 年度予算成立後に行うべきものであるが、できるだけ早く研究を開始するために、予算成立前に行うこととしているものである。従って、成立した予算の額に応じて、研究費の規模、採択件数等の変更が生じる場合等がある。

＜新規課題採択方針＞

肝炎研究 10 カ年戦略、および肝炎対策の推進に関する基本的な指針に基づいた行政的課題を解決するための研究を進め、適切な肝炎医療の推進のため、肝炎ウイルス検査の促進、陽性者や患者を適切な受診に結びつけるシステム構築等の肝炎医療体制・社会基盤の整備に資する研究等を採択する。

なお、本事業において実施する研究成果を施策へ反映するため、研究の進捗状況については肝炎対策推進協議会等へ定期的に報告することが予定されている。そのための資料作成及び同協議会においてプレゼンテーションを行う可能性があることについて、あらかじめご承知おき願いたい。

研究費の規模：1課題当たり

一般公募型① 30,000 千円～40,000 千円程度(1 年当たりの直接研究費)

一般公募型② 10,000 千円～20,000 千円程度(1 年当たりの直接研究費)

一般公募型③ 20,000 千円～30,000 千円程度(1 年当たりの直接研究費)

研究期間：

一般公募型①～③ 1～3年

新規採択予定課題数：3課題程度

※各研究課題について原則として1課題を採択するが、採択を行わない又は複数の採択をすることがある。

＜公募研究課題＞

【一般公募型】

① 効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究(26130101)

ウイルス性肝炎の治療成績向上の一方で、いまだ受診に至っていない検査陽性者が存在する。検診により見出された陽性者を適切に医療機関へ受診勧奨し、フォローアップを行うため、個人情報に十分配慮した効率的な陽性者追跡システムの構築を目指した研究を行う。

② ウイルス性肝疾患に係る各種対策の医療経済評価に関する研究(26130201)

ウイルス性肝疾患に対する新規治療法の開発が続いている現状や、本邦における感染者数等の動態を反映した、肝炎ウイルス検査、治療介入、肝がんスクリーニング等のウイルス性肝疾患に係る対策の医療経済評価に関する研究を行う。

③ 職域におけるウイルス性肝炎患者に対する望ましい配慮及び就労支援の在り方に関する研究(26130301)

肝炎ウイルス検査の受検促進、その後の受診勧奨や就労と治療の両立の支援を含め、職域におけるウイルス性肝疾患患者等に対する望ましい取組や配慮の在り方に関する研究を行う。研究にあたっては個人情報に十分配慮すること。また採択にあたっては関係各所と連携を行うなどより実効的な施策の整備に資する研究を優先する。

＜研究計画書を作成する際の留意点＞

目標を明確にするため、研究計画書の「9. 期待される成果」に、当該研究により期待される科学的成果及び当該成果によりもたらされる学術的・社会的・経済的メリットを具体的に記載すること。また、「10. 研究計画・方法」に、年度ごとの計画及び達成目標を記載するとともに、実際の医療等への応用に至る工程を含めた研究全体の具体的なロードマップを示した資料を添付すること(様式自由)。

なお、研究課題の採択にあたっては、これらの記載事項を重視するとともに、中間評価及び事後評価においては、研究計画の達成度を厳格に評価する。その達成度(未達成の場合にはその理由、計画の練り直し案)如何によっては、研究の継続が不可となる場合もあり得ることに留意すること。

また、平成26年度に、「肝炎等克服政策研究事業」の他の研究班で研究代表者・研究分担者となる予定の者や、平成25年度における「肝炎等克服緊急対策研究事業」及び「B型肝炎創薬実用化等研究事業」において、平成26年度も継続して、あるいは新規に研究代表者・研究分担者となる予定の者については、原則今回応募する研究班の研究代表者・研究分担者には加えないこと。上記に該当する者が生じる場合は、その必要性・合理性を研究計画書に記載すること。

Ⅲ 疾病・障害対策研究分野

(5) 感染症実用化研究事業

ウ. 肝炎等克服実用化研究事業

い. 肝炎等克服緊急対策研究事業

1. 公募の対象

(1) 研究事業の概要

① 肝炎等克服緊急対策研究事業

B型・C型肝炎ウイルスに現在感染している者は、全国で合計約 300～370 万人と推定されており、国内最大級の感染症であり、感染を放置すると肝硬変、肝がんといった重篤な病態に進行し、我が国の肝がんによる死亡者数の約9割がB型・C型肝炎ウイルス起因と報告されている。このようなことから、平成 22 年1月に施行された肝炎対策基本法に基づいて肝炎対策の推進に関する基本的な指針が平成 23 年5月に告示され、同指針において国は、肝炎医療の水準の向上に向けて、肝炎に関する基礎、臨床研究等を総合的に推進する必要があるとされている。また、B型肝炎については低い治療効果や長期治療の必要性等の問題を鑑み、平成 24 年度を初年度として取りまとめられた肝炎研究 10 力年戦略における重要課題として別途新たにB型肝炎創薬実用化研究が盛り込まれ、研究が推進されているところである。

以上のような背景から、肝炎ウイルス持続感染機序の解明や肝疾患における病態の進展予防法及び新規治療薬の開発等を行う本研究事業は、国民の健康面での安心・安全の実現のために重要であり、今後も肝炎に関する基礎、臨床研究等を進め、引き続き肝炎治療実績の大幅な改善につながる成果の獲得やB型肝炎に対する画期的な新規治療薬の開発を目指す研究等を推進する。

なお、この公募は、本来、平成 26 年度予算成立後に行うべきものであるが、できるだけ早く研究を開始するために、予算成立前に行うこととしているものである。従って、成立した予算の額に応じて、研究費の規模、採択件数等の変更が生じる場合等がある。

(2) 新規課題採択方針

肝炎研究 10 力年戦略、および肝炎対策の推進に関する基本的な指針に基づき、ウイルス性肝疾患患者におけるウイルス因子、宿主因子等の解析や、動物モデルでの検証等により、効率的な治療法の開発に資する研究を推進する。また、肝硬変患者も含めた慢性肝疾患患者における非侵襲的かつ効率的な検査系の確立や肝機能の改善・発がん予防のための各種治療法の開発やエビデンス構築に資する研究等を重点的に行う。

本研究分野の推進により、効率的なウイルス性肝疾患の診断系の確立、治癒率の向上、肝硬変・肝がんによる死亡者数の減少等の成果の獲得が期待される。

(3) 研究課題の内容

① 肝炎等克服緊急対策研究事業

【一般公募型】

ア. モデル動物等を用いた HCV 感染病態と関連する宿主、ウイルス因子の解析と新規治療法に関する研究(26380101)

実験モデル動物等により、HCV 感染後の病態進展、免疫応答や薬剤に対する反応性・耐性等の詳細な解析を行い、より有効な抗 HCV 治療法の開発に資する研究を採択する。

イ. 肝移植後のウイルス性肝炎に対する病態進展制御法に関する研究(26380201)

肝移植後患者における種々の抗ウイルス療法の有効性・安全性の評価や、移植後の病態進展及び発がんを抑制するための治療の標準化に関する研究を採択する。なお、本研究課題では、肝移植後患者の予後改善に資することを目的として、より全国的で規模の大きな多施設共同研究体制を有するものを優先して採択する。

ウ. 小児のウイルス性肝炎患者の病態解明と治療の標準化に関する研究(26380301)

乳幼児期を含む小児のウイルス性肝炎患者の病態等の実態を明らかとし、最新の治療法を踏まえた、治療の標準化に資する研究を採択する。採択にあたっては、受療患者数の検討等含めた、より規模の大きな多施設共同研究体制を有するものを優先する。

エ. ウイルス性肝疾患患者に対する栄養・運動療法等の非薬物治療の有効性評価と標準化に関する研究(26380401)

B 型および C 型肝炎・肝硬変患者における食事療法・運動療法等の非薬物治療の有効性や、QOL、合併症や予後に対する長期的な影響を検討し、その標準化を目指す研究を採択する。採択にあたっては、より規模の大きな多施設共同研究体制を有するものを優先する。

オ. B 型肝炎ウイルス感染の宿主反応を規定する因子の網羅的解析と新規診断法の開発に関する研究(26380501)

B 型肝炎ウイルス感染の各病態やワクチン応答性、難治症例等における宿主因子等の網羅的な遺伝子解析により、B 型肝炎に関する新規診断法の開発や新たな治療法の確立に資する研究を採択する。

カ. 肝疾患患者の病態を低侵襲かつ効率的に評価・予測する新規検査系の開発に関する研究(26380601)

慢性ウイルス性肝炎病態進行例における治療法の適切な判断と予後予測に資し、かつ肝生検等の侵襲度の高い検査系に代わる新たな効率的診断法の開発に関する研究を採択する。採択にあたっては、より検証規模が大きく、実用化に近い研究を優先する。

キ. 慢性肝炎・肝硬変・肝がんの病態解明と、各病態で求められる診療指針の開発と普及のための研究(26380701)

ウイルス肝炎・肝硬変・肝がんの病態および経過の多様性に関するウイルス因子や宿主因子等を明らかとし、病態別及び新規治療に対応した診療指針やクリティカルパス等の資材の開発に資する研究を採択する。採択にあたっては、その成果の効率的な普及による医療の均てん化に資する研究を優先する。

【若手育成型】**ク. 当該研究分野での研究を活性化し、将来にわたって肝炎研究を発展させる研究者を育成し、社会的にも重要な肝炎に関する各種研究の推進を図ることを目的とする研究(26380801)**

本研究では、若手研究者が、肝炎ウイルスに関連する、基礎・臨床等研究分野の研究課題について、独創性や新規性に富む研究開発課題を提案し、実施することを求める。

(4) 研究期間及び研究経費

① 肝炎等克服緊急対策研究事業

・研究期間：1年間(平成26年度)※

・平成26年度委託額：1課題当たり

【一般公募型ア】 上限 78,000 千円程度 (間接経費30%を含む)

【一般公募型イ】 上限 39,000 千円程度 (間接経費30%を含む)

【一般公募型ウ】 上限 39,000 千円程度 (間接経費30%を含む)

【一般公募型エ】 上限 39,000 千円程度 (間接経費30%を含む)

【一般公募型オ】 上限 78,000 千円程度 (間接経費30%を含む)

【一般公募型カ】 上限 50,000 千円程度 (間接経費30%を含む)

【一般公募型キ】 上限 50,000 千円程度 (間接経費30%を含む)

【若手育成型ク】 上限 10,400 千円程度 (間接経費30%を含む)

※ 委託契約の研究期間は1年間とするが、研究計画書の作成時において、複数年の研究期間が必要となる場合には、研究期間が複数年の研究計画書を作成し、提出することができる。またこの場合の評価の対象となる研究期間は、研究計画書に記載された複数年間となる。ただし、評価の対象となる研究期間は原則3年までとする。

(5) 新規採択予定課題数

① 肝炎等克服緊急対策研究事業)

【一般公募型ア～キ】：7課題程度

各研究課題について原則として1課題を採択するが、採択を行わない又は複数の採択をすることがある。

【若手育成型ク】：4課題程度

ただし、採択数が増減する場合がある。

C型肝炎ウイルスに関する国際情報収集

分担研究者 鈴木亮介 国立感染症研究所 ウイルス第二部 主任研究官

研究協力者 藤本陽 国立感染症研究所 ウイルス第二部 研究員

国際会議の概要

第20回C型肝炎ウイルス及び関連ウイルスに関する国際研究集会

開催日：2013年10月6日-10日

場所：オーストラリア、メルボルン

本研究集会は、世界各国の臨床および基礎のC型肝炎ウイルス（HCV）研究者が一堂に会し、最先端の研究成果の発表と討論を行うことを目的として開催されるものである。今回は約90題の口頭発表および約190題のポスター発表により構成されていた。今回は各演題が（1）Vaccine、（2）Virus-Host Interaction、（3）Antiviral and Clinical、（4）Innate immunity、（5）Virus Entry、（6）Viral Assembly and Egress、（7）Pathogenesis and HCC、（8）Adaptive immunity、（9）Viral Replication、（10）Host Genetics and Response、（11）Viral Evolution and Clinical Researchの各セッションに分類され、またMSDによるClinical Symposiumが加えられていた。開催地のオーストラリアは、研究者の多いアメリカやヨーロッパから距離的に遠い事、またアメリカ政府機関の活動停止の影響があったのか定かではないが、例年に比べると参加者が大幅に少なかった。

口頭発表

（1）Vaccineのセッションでは、J. Lawが組換えE1/E2蛋白質を抗原としたワクチンをヒトに免疫し、誘導された中和活性がウイルスの遺伝子型により異なる事を報告した。Y. Alhammadは、3ヶ所の可変領域（HVR1、HVR2、

IgVR）を欠失したE2タンパク質を抗原として75種類のモノクローナル抗体を樹立した。その中の1つであるMAB24抗体はGT1~6の異なる遺伝子型のHCVに対して中和活性を示し、エピトープは412-423aaの範囲にあることが分かった。HVR1はこの領域を覆って中和抗体の結合を回避するようである。MAB24による中和を回避するウイルスを樹立し、この抗体の認識には415番目のアミノ酸が重要であることを明らかにした。M. Sallbergは、DNAワクチンとpeg-IFNおよびribavirin治療の併用を行うフェーズ2の結果について報告し、DNAワクチンの有用性および安全性を示した。B. Grubor-Baukは慢性肝炎患者のmonocyte derived dendritic cellsにアデノウイルスベクターを用いてHCV蛋白質を発現させ、ネクロシスを誘導した細胞を患者に接種することにより、ワクチン効果を認めた。J. Hallidayはアデノウイルス/MVAベクターによる非構造蛋白質発現ワクチンで、慢性C型肝炎患者において初めてT細胞の活性化とワクチンの安全性を確認した。しかしながら十分な抗ウイルス効果は認められていない。

HCVのワクチン開発は未だ開発途上ではあるが、少なくとも複数の方法によるワクチンがすでに臨床試験に入っており、これまでのところ安全性の問題については報告がないようである。しかしながら顕著な効果は認められておらず、明確なワクチン開発のストラテジーは確立されていない為、今後も試行錯誤が必要であると思われる。

（2）Virus-Host Interactionのセッションでは、M. JoyceがHCVその他プラス鎖RNA